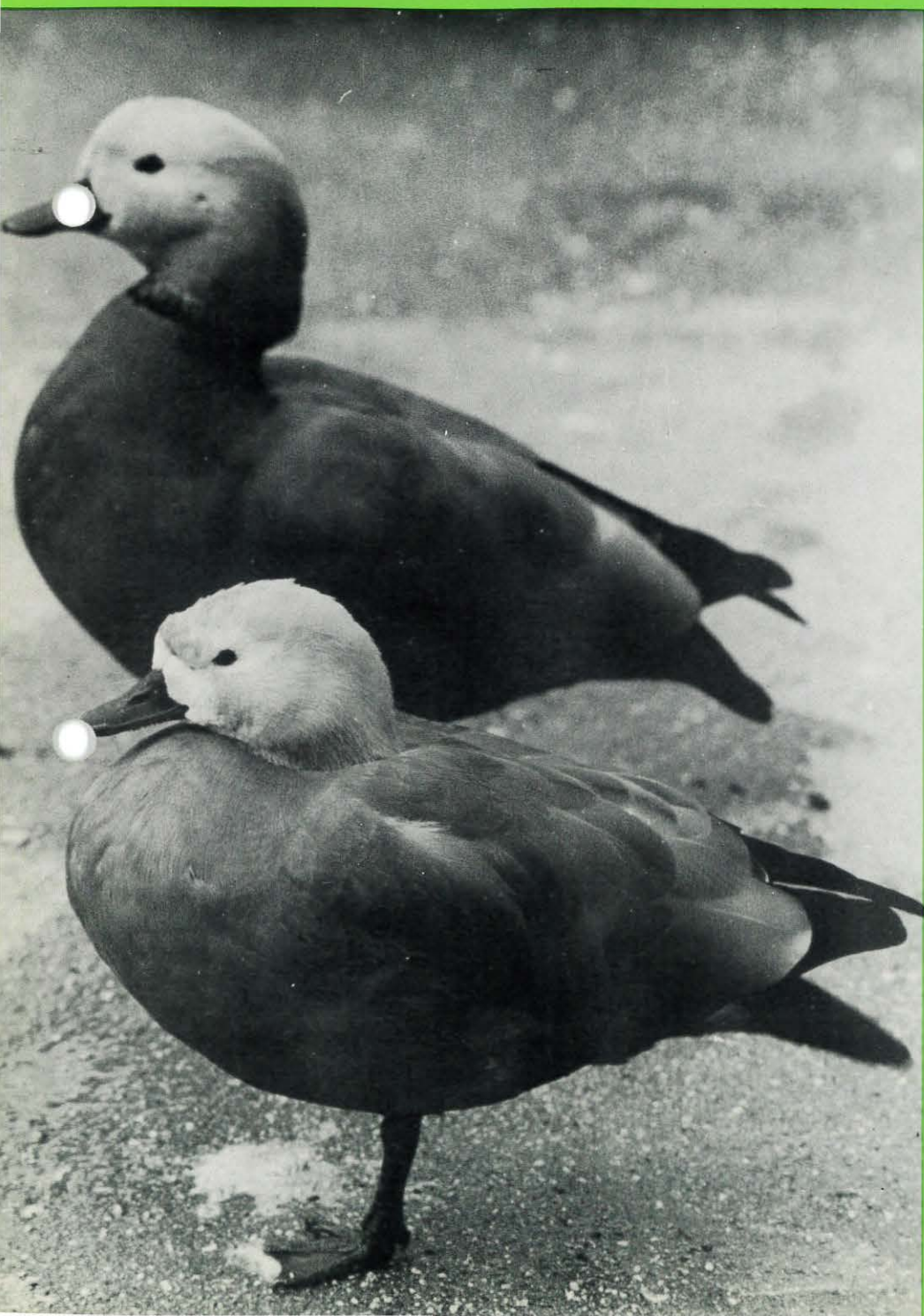


なきごえ



1977

3

大阪市
天王寺動物園協会

射場 光好

昭和16年のこと、戦時色がこくなって、だんだんと食料不足が深刻になり、大阪の都心でも空地を活用して、野菜類がさかんに作られました。いわゆる家庭菜園です。

キャベツなどの葉をくいあらすアオムシはどこのはたけでもよくみられ、アオムシからかえったモンシロチョウは、春はもちろん、夏でもよく目につきました。

私は、師範学校の子科に入学して2年目、ちょうどそのころ

『モンシロチョウは、春だけのチョウではないのだ。大阪では1年間に、いったい何回かえるか、まだ、だれもしらべたものがないのだ。!』

このことを耳にしてから、私はモンシロチョウにとりつかれました。

当時は、ダイコンやキャベツをうえておけば、どこでもようにモンシロチョウをよびよせることができました。

農薬はありましたが、家庭菜園ではほとんど使用されませんでしたから、モンシロチョウは、十字花科植物、特にキャベツなどの野菜類には好んで卵をうみつめました。夏の野菜の不足のころは、野草のイヌガラシなどにも卵をうみつめました。

春のはじめころ、静かな自然界に清楚な姿でおめえするモンシロチョウは、数からいえば、たいしたものではありませんが、5月から6月にかけて、梅雨期の前ころの発生数は、年間を通じて最多の数になります。でも、すべての生物は活動期にはいつているので、特にモンシロチョウだけがめだつて多いとも見えないのです。

なきごえ3月号目次

動物と私	2
“タンチョウの親子”	3
動物園グラフ	4・5
カリフォルニアの動物園を訪ねて	6・7・8・9
獣医室から ⑮	10
動物園ニュース	11



1匹のモンシロチョウのめすは、1腹に200個ぐらいの卵をもっているようですが、全部がうまく育つことはまずありません。餌になるキャベツなどが十分にあっても、スズメやハチ、特に寄生バチや病気でたおれるものが最盛期(5月~6月)には特に多いようです。

バランスをとっているのでしょう。

秋もおわりのころ、ひらひらと白い紙片がまっているようなモンシロチョウには、春のはなやかさはみられません。卵をうみつめる葉をみつけ、今年最後の卵をうみつめるチョウには、悲愴な、しかも重大な使命をおびているようにさえ感じられます。

春から夏のころは、食草(餌のキャベツなど)の近くでアオムシは、場所をみつけてサナギになりますが、いよいよ越冬しなければならぬ最後のアオムシは、ずいぶん遠方まで雨露をしのぐにつごうのよい場所をさがしてサナギになります。

大阪では、年間を通じて、年によって多少のずれはありますが、6回から7回発生することがはつきりしました。

飼育箱の中で産卵させ、孵化した幼虫には餌を不足させないようにして、糞の掃除などもこまめにやって、蛹化したときには、ほっとします。5日から1週間はせわがからず羽化をまつばかりだからです。羽化が近づくと殻を透して、成虫のチョウの目や翅がみえるころはそわそわします。感激的な羽化がまもなく見られるからです。何回みても、造化のふしぎさが、ぞくぞくとからだいっぱいにつたわります。

モンシロチョウにとりつかれて、30数年になりましたが、今も道ばたでモンシロチョウをみかけると久しぶりになつかしい友だちにあったような気持ちになります。

毎年、鉢にキャベツをうえて、モンシロチョウをよぶことにしていますが、最近はあまりたずねてこなくなりました。

今年も春一番のモンシロチョウが、まもなくでてくるころです。

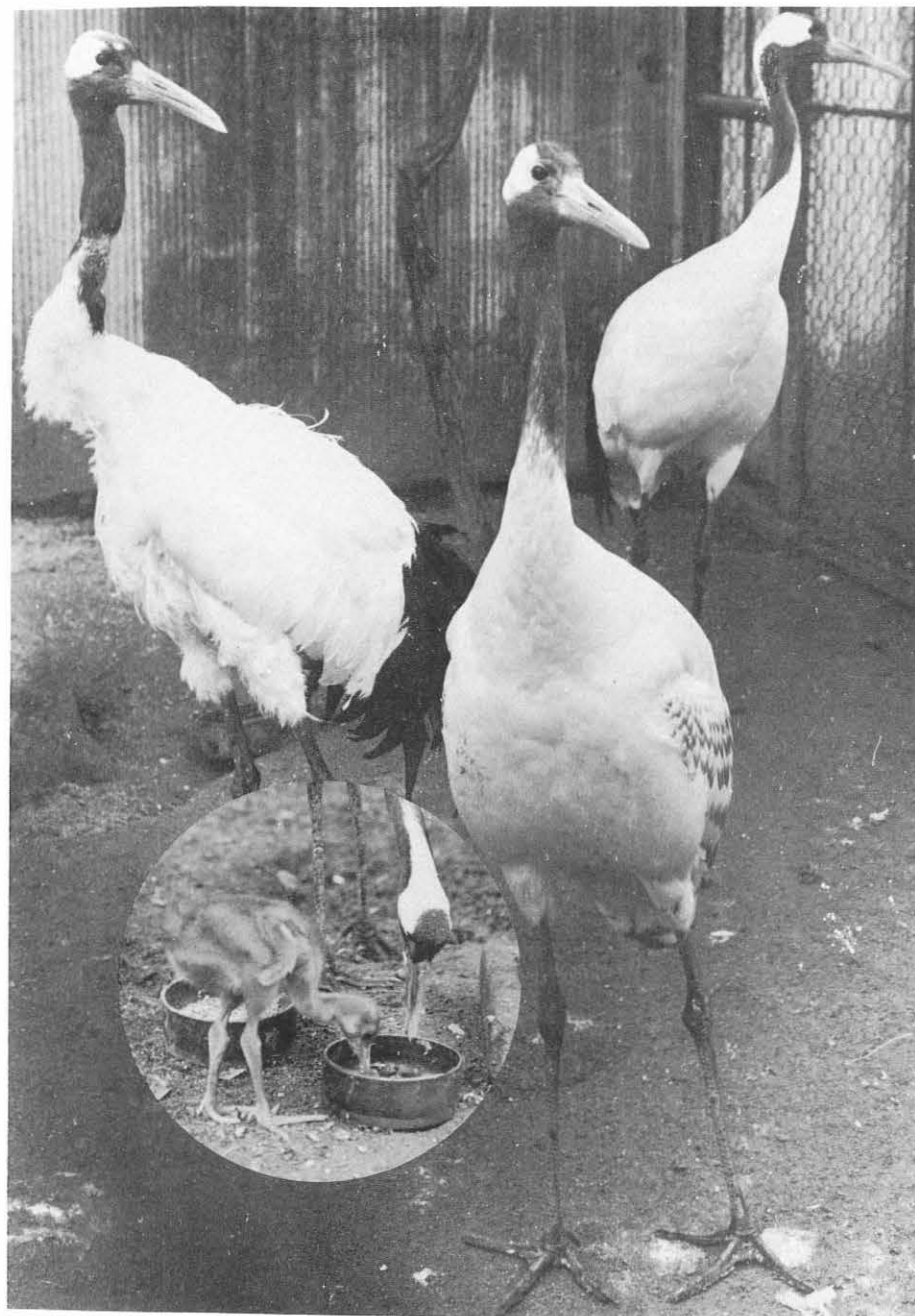
(堺市立東百舌鳥小学校 校長)

表紙の写真説明

“アカツクシガモ”

アカツクシガモは体全体が美しいキツネ色のカモです。ヨーロッパ東南部、アフリカ北部からアジアまで広く分布しますが、日本には冬にまれに渡って来る位です。

(撮影：長瀬 健二郎)



“タンチョウの親子”

昨年6月30日にふ化したタンチョウのヒナは、もう両親と同じ位の大きさに成長しました。まだ幼鳥の羽色ですが、来年には美しい羽にはえかわるでしょう。

(中央：ヒナ、左：父親、右：母親)

(左下の写真：ふ化後1週間目)

(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

“大雪の日の園内風景”

2月に入って厳しい冷え込みが続いていましたが、10日には近來まれな程の大雪で、動物園も白一色の銀世界に模様替えしました。

今日は、その雪にとまどったり、喜んだりの動物を紹介しましょう。(撮影：宮下 実)



おじいさんエミューも
ちょっと戸惑い気味です。



カルガモも寒さに縮みあがったのか
姿を見せませんでした。



ホッキョクグマは、珍しそうに
雪をなでたり、かいでみたり。



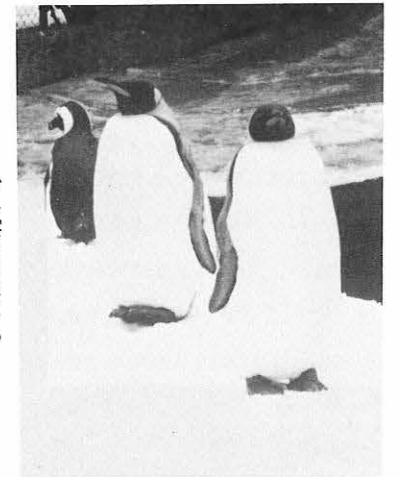
ヒグマは、雪にも無関心でした。



初雪に舞うツバメ？
実はクジャクの足跡。



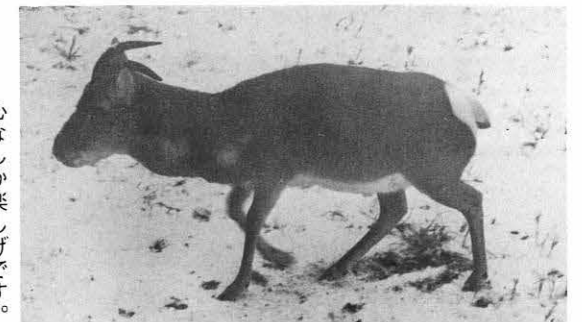
然の雪にもニホンシカ達は平気です。



少し寒そうです。
さすがのキングペンギンも



池の中へ。
フラミンゴ達は雪を嫌ってか、



心なしか楽しげです。
モウコレイヨウは

1・2月の動物園日記

- 1/6. トラの仔が軽いクル病のようなので投薬と日光浴を始めました。
8. 寒さのため衰弱していたカニクイザルが治療のいかなく死亡しました。
9. 放養舎のクロヅルがどこかにぶつかったらしく骨折していましたので、研究室に收容し、治療してやりました。
10. モウコレイヨウのメスが発情しました。
11. 出産に備えクロオオカミのオスとメスの検

- 便を行いました、いずれも陰性でした。
13. コビトコブウシが軟便ですので治療中です。広島安佐動物園公園からキョンのメスをいただき、これでペアになりました。
 14. 寒さのため小鳥舎の小鳥達は元気ありません。
 15. トラの仔が回虫をわかしていたので駆虫してやりました。去年生れのアカカンガールの赤ん坊がこの日始めて袋から外に出ました。
 16. 治療中のキングペンギンが食欲を回復しま

- した。
19. シュバシコウの巣材用にヤナギの枝を城北公園より車一台分いただきました。
 20. トモエガモがオス、メス各1羽、入園しました。
 22. ツクシガモのメスが肝臓破裂の為死亡しました。
 23. ヌクテの交尾が確認されました。
 24. ピューマとイノシシが回虫をわかせていたので駆虫してやりました。
 26. バングラデシュのダッカ動物園との動物交

- 換が行われ、当園からタヌキ、アナグマ各2頭が送られました。
27. トモエガモが一番入園しました。
 28. モウコレイヨウの交尾が確認されました。
 - 2/2. ヒョウが糸虫をわかせていたので駆虫してやりました。
 3. トカラヤギが仔を1頭、出産しました。
 4. ヤギが2頭の仔を出産しました。
 5. ヒツジも2頭の仔を出産しました。

カリフォルニアの動物園を訪ねて

③ サンディエゴ動物園

長瀬 健二郎

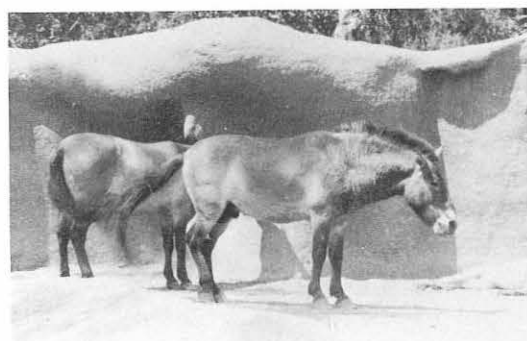


§ 超一流のサンディエゴ動物園

6月27日、ロスアンジェルス動物園を訪れ、翌28日朝、サンディエゴに飛びました。飛行機で30分ちょっとです。メキシコとの国境にあるこの町は観光地として有名ですが海軍の基地としても有名で、港には軍艦らしい船がたくさん停泊していました。

ここにはサンディエゴ動物園とサンディエゴ野生動物園の2つの動物園とサカマタのショーで有名なシーワールドがあります。3日間でこの3つを訪ずれる計画を立てました。

サンディエゴ動物園は一昨年、天皇・皇后両陛下が御訪問された動物園で、テレビ等で報道されたから御存知の方もいらっしゃると思います。アメリカだけではなく世界でも超一流と評価されている



珍獣 ブルツェワルスキーズホース

素晴らしい動物園です。一昨年、当園の中川道朗園長もここを見学し、その時知り合った日系二世のアサダさんのところに今回私達はお世話になりました。

アサダさんはわざわざサンディエゴ空港まで迎えに来てくれました。前日電話で話した時に、男らし

い感じの声だなと思っていたのですが、会ってみると声のとおり、色が浅黒くて、ギョロリとした大きな目の現代版西郷隆盛といった感じの方でした。

建国200年祭の記念の国旗がはためく入口を入ると広いフラミンゴ放飼場です。目にしみる緑の広い芝生の上にたくさんの白と紅のフラミンゴが居て、



緑の中のフラミンゴ放飼場

その印象は強烈です。入口を入ったとたん動物園にやってきたなあという感じを強く受けます。その左に1925年からもう51年も飼われているオオバタンがいました。このオオバタンはこの自慢のひとつだそうです。

§ バスツアー

広さが天王寺の4倍程もあるこの動物園は歩いて見て廻るには広過ぎます。フラミンゴ放飼場の右横にはバスの停留所があり、これに乗って園内見学です。このバスは動物達への配慮から天然ガスで動くそうです。乗車賃は1人1ドル50セント。運転手がガイドも兼ねていて時折動物舎で止っては動物の説明をしてくれます。クマ舎ではガイドがクマの愛称



園内を廻るバス

を呼ぶと呼ばれたクマがとんできます。そして「おすわり」と言うとチョココンと座り、「皆さんに挨拶は？」と言うとクマがバスに向かって手をふります。よく仕込んだものです。芸をちゃんとするとガイドの人が人工飼料らしいビスケットを投げ与えていました。もしこんなことを日本の動物園でやったらどうなるでしょう。お客さん達は我も我もとクマに食物を与え、恐らくクマは食べ過ぎて倒れてしまうでしょう。でもこちらではお客さんの一人一人が、これはショーであり、ガイドの人は決められたエサを決められた量だけやっているということをよく知っていて、誰もお菓子を与えようなどとする人は居ません。春秋の日曜祭日の閉園後、サルアパートなどの前にうず高くたまったお菓子や果物にいつも失望とアキラメの思いを持つ僕にとってそれはうらやましいことでした。この動物園では「オりに手を入れ



珍獣 コビトチンパンジー

るとかまれますよ」というプレートはありましたが、「食物を与えないで下さい」というプレートはあまり目につきませんでした。

バスはどんどん走って行きます。右・左に並ぶ動物舎には日本ではなかなかお目にかかれない珍獣、珍鳥が勢ぞろいです。僕は生きて生活している実物に接し、ただただ感激するばかりです。もう少し見たいなあと思う僕の心とは裏腹にバスは次から次へ



アフリカに住むレイヨウ、ボンテボック

と説明しては進んで行きます。コビトチンパンジー、ボンテボック、ブルツェワルスキーズホース、オカピ、ルーズヴェルトガゼル……。「済みません。もう少し待って下さい。」と運転手さんによほど声をかけようかと思ったのですが、ここで日本の恥をさらしては、と思い、グッとガマンしました。でも、僕の気持を察してくれたアサダさんは後でゆっくり園内を連れて歩いてくれました。

§ 園内散策

それまでに訪れていたサンフランシスコ、ロスアンジェルス動物園と同様、この動物園も大変な量の緑に驚かされます。緑がたくさんあるというより、緑の中に動物園があるという表現の方が適切でしょう。入口に入って左手には小川の流れる森林性動物の展示場があるのですが、そこなどはうっそうと繁る緑の中に動物が垣間見えるという感じです。また、この日もとても暑い日だったのですが、緑の木陰のおかげでかなり楽にしのげました。



うっそうと繁る園内の緑。左下隅がムーヴィングウォークです

園内にはロープウェイも走っていて、これはスカイファリと言います。サファリー狩猟旅行ーをもじったものなのでしょうが、これに乗ると園内を一望に見渡せるそうです。

バスを降りた頃、丁度、昼食の時間になりました。アサダさんが連れて行ってくれたのは園内のレストラン「ゴールデンイーグル」です。入り口にはシムボルのイヌワシの絵が飾られてあります。とてもきれいなレストランで、ウェイトレスにエスコートされて席につき、食べたアメリカ料理もとてもおいしかったのは食いしん坊の僕にとってとても印象的でした。

食事をしてから、アサダさんの案内でバスツアーで行けなかった所を見学しました。まず熱帯性の鳥類を放飼しているフライングケージです。斜面に作られたこのケージはバカデカイケージで600羽以上の鳥類が飼育されているそう



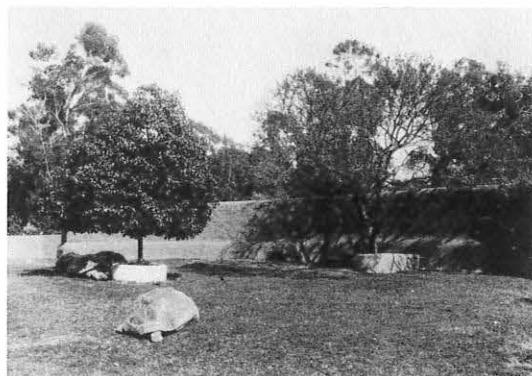
フライングケージ

です。一番高い所で15m位ありそうです。鉄骨、金網張りのこのケージは金網を張る際ヘリコプターを利用したそうで、いかにもアメリカの動物園らしいなあと思いました。熱帯のジャングルのようにうっそうと繁る木々の間を飛び交う原色の鳥達をながめながら坂を下ると出口です。ケージは、斜面に作られているので坂の上の入り口まで登って戻るとすれば大変なのですが、そこはサンディエゴ動物園、出口から坂の上までムーヴィングウォークがちゃんと作られています。これに乗ると一気に坂の上まで。このムーヴィングウォーク、実に9000万円もかかったそうです。

アメリカの殆どの動物園がそうなのだそうです。各動物舎や動物は殆んど寄付されたものだそうです。だから動物舎には「この動物は誰それさんからいただきました」とか、「この動物舎は誰それさんの寄付によるものです」と



出口。高さは15m位もありました

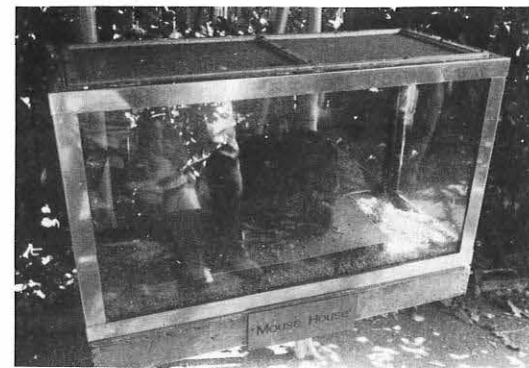


とても生息数の減少したガラバコソゾウガメ

いうプレートが掲げられてありました。大きな、とても費用がかかったろうなと思われる動物舎ではそのようなプレートが10枚位ならんでいました。

アサダさんにサンディエゴ動物園協会の話を聞きました。協会は1916年に創立されたとか。収入では園内を廻るバスによる収入が第1位で、2位が入場料、3位が売店の売上げだそうです。また動物園友の会的な組織があり、この会員になると毎月、月刊紙「ズーノーズ」が送ってもらえ、もちろん入場無料。その他様々な特典があります。会員は5万人もいるとのことでした。

子供動物園では可愛いらしい「ネズミの家」が印象的でした。近くのパン屋さんが1週間ごとに家



ケースの中の可愛いらしいネズミの家

のパンを寄付してくれるそうで、その中ではかわいいハツカネズミ達が文字通り家を食い潰して暮していました。立派な生態展示の行なわれている爬虫類舎、ユニークな開放式の冷房ペンギン舎、両陛下も御覧になったハチドリ舎などを見てからアサダさんは動物病院に連れて行ってくれました。

§ 動物病院

動物病院は2階建てのヨーロッパの旧家を思わせる建物です。ここの獣医師、ロビンソン先生の話によると入院動物の世話をする飼育係が3人、先生の秘書が1人、検査技師が2人、病理学者が1人、その他数えきれない位のボランティア。2階の研究室ではそのボランティア達が自分の卒業論



ガラガラヘビの為に砂漠のようにしつらえた展示場

文や学位論文の為に忙しそうに働いていました。この病院はもう古くなったとかで、今新しい病院を設計しているところだそうです。

動物園を出る前に、日本へのお土産を買う為、売店に寄りました。ここでも僕は驚いてしまいました。ライオンの顔が描かれたコースター、クマの指人形、カメの形をした灰皿、そして動物のポスター類、動



動物病院

物の絵本、ジャイアント・パンダが描かれたバッグ、アメリカ中で発行されたものが全てそろっていな程たくさん動物関係の本……。およそ動物関係のものが欲しい人はここに来れば、すべてまかなうといった感じです。ここまで充実した売店はカリフォルニアの他の動物園でもちょっと見かけませんでした。そこで僕は十数冊の本とお土産を買い込み、なごりおいしいサンディエゴ動物園をあとにしました。

(つづく)

(飼育課：獣医師)

獣医室から ①6

2月の診察カルテから

きびしい寒さもだんだんやわらぎ、春はもう目の前です。この冬もいろいろな動物が病気にかかりましたが、今回は2月の診察カルテからその一部をご紹介します。

◎2月2日：ヒョウ（オス、2才半）

病名：条虫症

条虫の排泄が認められたため駆虫薬投与

条虫というのは別名サナダムシとよばれる寄生虫の一種で、小腸に寄生し長いものでは8mに達する長いものもありますが、このヒョウの場合は猫条虫といわれる長さ50cmほどのものです。条虫はヒルのようにひらべったく節状につながっており、その一部がちぎれて糞便と共に時々出てきます。

◎2月7日：ヤギ（メス、1才2ヶ月）

病名：後産停滞

2月7日午前8時、出産（死産）、夕方になって胎膜の残りを排出しないためホルモン剤注射。

出産後しばらくすると胎膜（母体内で赤ちゃんを包んでいるもの）などが排出されますが、これを後産といいますが、これを後産停滞といいますが、この胎膜などが出産後一定時間すぎても排出されない症状で、ほうっておくと中毒症状をおこします。後産の排出する時間は動物によってかなり差があり、犬で2時間、馬で半時間位で、ヤギでは6時間位で排出するのが普通です。このヤギの場合、まだ若すぎて体が小さかったため、難産をおこし、後産を停滞させたようです。手を入れて胎膜を取りさる方法もありますが、今回はホルモン剤を注射して様子を見ました。翌朝後産は排出され、事なきを得ました。

◎2月21日：ゴリラ（メス、10才半）

病名：口内炎

食欲不振、口の中は赤くはれあがる。ルゴール液塗布、ビタミン製剤、サルファ剤投薬

このゴリラ（愛称ラリ）はオスに比べると体質的に弱く、年に1回はこの口内炎をおこします。口内炎というのは口の粘膜が赤くはれあがる病気ですがひどくなると口の中が痛いため食物が食べにくくな

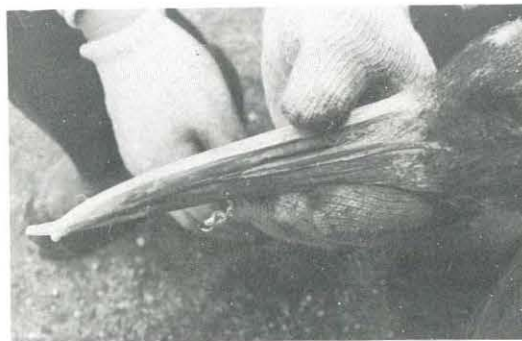
ります。いつも与えている餌では見向きもしなくなるため、イチゴ、グレープフルーツ、カステラなどの好物や変わったところではすしごはんまで与えています。治療の方はルゴール液を塗ったり、口内炎に効果のある薬を与えています。この原稿を書いている時点では口内炎は少し良くなりかけていますが、食欲の方は今一つです。この雑誌が皆さんのお手元に届くころには元気も食欲も回復していることでしょう。



◎2月24日：タンチョウ（オス、28才以上）

病名：不正咬合

下の嘴が伸びすぎて変形をきたしているため整形。下の嘴が上の嘴より1cmほど長く伸びすぎてうまくかみ合わず、餌が食べにくそうのため、ハサミと



ヤスリを使って整形しました。整形前には大好物のドジョウなどを食べるのが一苦労だったのですが、整形後は元のようにじょうずにドジョウやミミズなどを食べています。

（飼育課 宮下 実）

動物園ニュース

☆トカラヤギ、ヤギ、メンヨウ誕生

2月3日、トカラヤギが1頭（メス）生まれました。赤ちゃんはうす茶色の毛色で元気一杯です。翌日の2月4日にはヤギの双子が誕生しました。10日目に1頭は惜しくも死亡しまし



ギン（フンボルトペンギンとケーブペンギンの雑種）のヒナ2羽は、その後順調に成育を続け、今ではヒナのうぶ毛もとれて両親と同じ位の大きさに成長しました。2月初め頃から巣の外にもよく出てくるようになり、2月中頃からは2羽そろって元気に泳ぐようになりました。両親のどちらに似るか今後が楽

夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします



上本町近鉄 TEL.(06)779-1231

アベノ近鉄 TEL.(06)624-1111

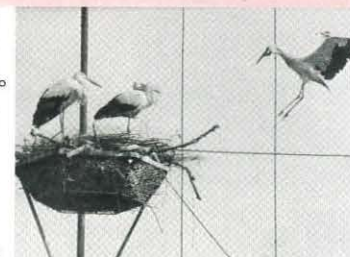
奈良近鉄 TEL.(0742)33-1111



東京近鉄



コソの果に柳の小枝を敷きつめてやりました。新しい巣材の上で、シュバシコウは満足そうに口ばしをカタカタならしています。



☆混血ペンギンのヒナ順調に成育

11月中頃と12月初めにそれぞれふ化した混血ペン

お願い

当園では、現在鳥卵の収集を行っています。不要の鳥卵（無精卵、中止卵、又は卵殻のみでも結構です）があれば下記宛、お電話下されば幸いです。

締切 5月15日

飼育課 深井 まで

電話 06-771-8402番

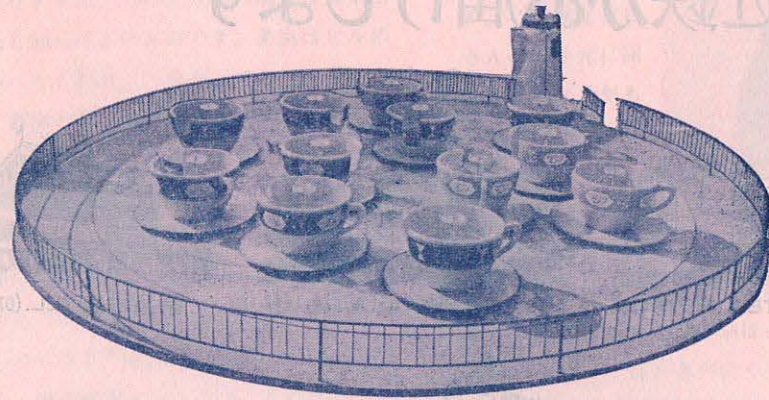
獣医室から ⑬

2月の診察カルテから

きびしい寒さもだんだんやわらぎ、春はもう目の前です。この冬もいろいろな動物が病気にかかりましたが、今回は2月の診察カルテからその一部をご紹介します。

ります。いつも与えている餌では見向きもしなくなるため、イチゴ、グレープフルーツ、カステラなどの好物や変わったところではすしごはんまで与えています。治療の方はルゴール液を塗ったり、口内炎に

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹 娯楽 株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

後産は排出され、事なきを得ました。

◎2月21日：ゴリラ（メス、10才半）

病名：口内炎

食欲不振、口の中は赤くはれあがる。ルゴール液塗布、ビタミン製剤、サルファ剤投薬

このゴリラ（愛称ラリ）はオスに比べると体質的に弱く、年に1回はこの口内炎をおこします。口内炎というのは口の粘膜が赤くはれあがる病気ですがひどくなると口の中が痛いため食物が食べにくくな

ヤスリを使って整形しました。整形前には大好物のドジョウなどを食べるのが一苦労だったのですが、整形後は元のようにじょうずにドジョウやミミズなどを食べています。

（飼育課 宮下 実）

☆トカラヤギ、ヤギ、メンヨウ誕生

2月3日、トカラヤギが1頭（メス）生まれました。赤ちゃんはうす茶色の毛色で元気一杯です。翌日の2月4日にはヤギの双子が誕生しました。10日目に1頭は惜しくも死亡しましたが、残る1頭は順調な成育ぶりです。その翌日の2月5日には、今度はメンヨウの双子が生まれ、3日続きの出産でヤギ、メンヨウ舎は大にぎわいです。双子のメンヨウの赤ちゃんは、1頭は母親がめんどうをみて



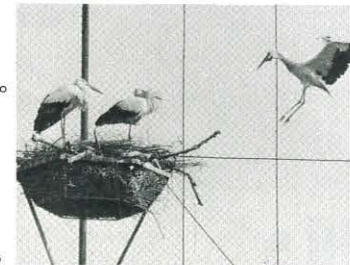
ますが、もう1頭には全く知らんぶりなため、人工哺育で育てています。共に元気に育っており、母親が育てた方と人工で育てた方と、どの位成長の差がでるか興味のあるところです。

☆ワシミミズクの産卵

一昨年、韓国の昌慶苑動物園から贈られた2つがいのワシミミズクの内の1組が、2月初め交尾し、2月10日、16日と各1ヶ産卵しました。収容場所がせまいため2ヶの卵共取りあげて、ふ卵器に入れてあたためています。うまくいけば3月下旬頃にかわいいヒナの誕生がみられるかもしれません。

☆シュバシコウの巣材上げ

毎年3月になるとシュバシコウの巣作り、産卵が始まりますが、それに先立ち2月15日、放養舎内の5ヶ所の巣に柳の小枝を敷きつけてやりました。新しい巣材の上で、シュバシコウは満足そうに口ばしをカタカタならしています。

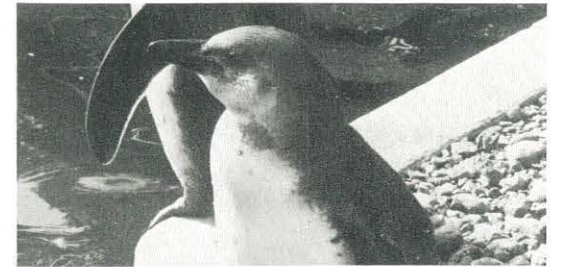


☆混血ペンギンのヒナ順調に成育

11月中頃と12月初めにそれぞれふ化した混血ペン

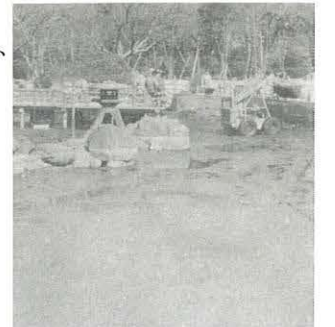
動物園ニュース

ギン（ファンボルトペンギンとケーブペンギンの雑種）のヒナ2羽は、その後順調に成育を続け、今ではヒナのうぶ毛もとれて両親と同じ位の大きさに成長しました。2月初め頃から巣の外にもよく出てくるようになり、2月中頃からは2羽そろって元気に泳ぐようになりました。両親のどちらかに似るか今後が楽しみです。



☆日本庭園池のしゅんせつ作業始まる

南園、日本庭園池が泥やゴミがたまり、汚染がひどくなる一方なため、2月22日からしゅんせつ作業が始まりました。池の広さが1100㎡あるため、10日ほどかかりますが、約10年ぶりのしゅんせつで、池も美しくよみ返ることでしょう。なおこの池にいたコブハクチョウ、カルガモ、コクチョウなどは他の場所へ収容中です。



毎月第3月曜日は休園日です。6月までの休園日は下記の通りです。

3月22日、4月18日、5月16日、6月20日

開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。

お願い

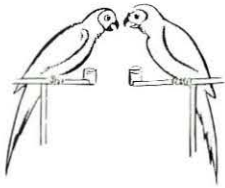
当園では、現在鳥卵の収集を行っています。不要の鳥卵（無精卵、中止卵、又は卵殻のみでも結構です）があれば下記宛、お電話下されば幸いです。

締切 5月15日

飼育課 深井 まで

電話 06-771-8402番

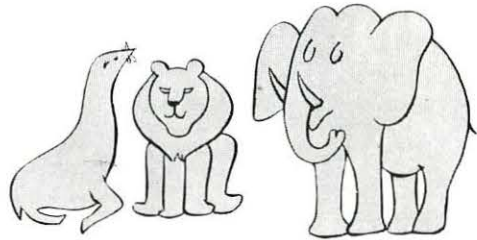
なきごえ 昭和52年3月15日発行(毎月1回15日発行) 第13巻第3号(通巻139号)
 編集／大阪市天王寺動物園 千543 大阪市天王寺区玉水町2
 発行人／大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 電話 大阪 (06)771-0201
 印刷所／株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 振替口座 大阪 37823
 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三
 深井 和美・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・農本 武志